1989年東欧革命

１）1988年３月、ベオグラードを訪れたゴルバチョフは、ユーゴスラヴィア政府と共同宣言を発した。これが【1:　　】である。ゴルバチョフ政権が打ち出した新思考外交の一環として、1968年のチェコ事件の際に出されたブレジネフ=ドクトリンの制限主権論（№202参照）を否定して、東欧社会主義諸国の内政に干渉しないとする内容であり、東欧圏全対に大きなインパクトを与えた。

２）1989年6月、【2:　　】では、複数政党制の下で行われた議会選挙で自主管理労組「【3:　　】」が勝利し、穏やかに政権委譲が行われ、社会主義ではない政権が生まれた。この動きは他の東欧諸国にも波及した。

ポーランドでは労働組合もみな「国立」だったが、1980年、食糧危機から発生したストライキ運動に譲歩して自由な労働組合運動を認めた。この時生まれたのが自主管理労組「連帯」である。1881年に解散させられたが1886年に復活。指導者の【4:　　】は、1990年の選挙で大統領に当選した。彼は高校を卒業後、グダニスク造船所（旧レーニン造船所）で働く電気技師だった。

３）ハンガリー　‥‥　社会主義労働者党（共産党）政権のもと、1989年2月に【5:　　】が正式に導入された。5月にハンガリーとオーストリア間の国境を開放した。1989年8月、ハンガリー政府当局は、約1000人の東ドイツ国民を自国経由でオーストリアに脱出する手助けをした。これを「汎ヨーロッパ・ピクニック」という。これでベルリンの「壁」の意味は半減した。

４）ブルガリア　‥‥　1989年11月、ソフィアのデモ行動（本来は環境問題に関する要求）がブルガリアの政治改革全般へ拡大、11月10日、老いた指導者ジフコフに代わって外相のペータル・ムラデノフが国家元首となった。1990年2月、共産党は自発的に一党独裁体制を放棄し、党名を「ブルガリア社会党」と改めた。同年6月には自由選挙が行われ、ブルガリアも複数政党制への移行を果たした。同年11月、国名は「ブルガリア共和国」と改められた

５）チェコスロヴァキア　‥‥　ベルリンの壁崩壊に勇気付けられたチェコスロバキア国民は、1989年11月に至り、民主化勢力を中心にデモやストライキ・ゼネストをたびたび行い、事態を収拾できなくなった共産党政府は民主化勢力との話し合いに応じ、両者は一党独裁体制の放棄と複数政党制の導入を妥結した。この「革命」はルーマニアのような流血の事態には陥らなかったので「【6:　　】」と言う。

６）1989年11月9日、【7:　　】**が崩壊**した。（厳密には９日は、**通行が自由に**なった。破壊されたのは翌日以降）この事件は、東西ベルリン市民のみならず、世界中に大きなインパクトを与え、驚異的なスピードでの「ドイツ再統一」の原動力となった。

《真相はこうだった！》1989年8月以降、東ドイツ市民はハンガリーやチェコスロバキア経由で自由に亡命できるようになり「壁」の持つ意味は小さくなった。東ドイツ国内でも、退陣を求めるデモが活発化し、ホネカー書記長は、10月に退陣した。11月9日、「旅行許可の大幅な規制緩和（許可書が必要）」の指令を東ドイツ政府首脳部は、深く考えず決裁した。この指令の内容を発表するスポークスマン、ギュンター・シャボウスキー（社会主義統一党政治局員）も、内容がよく分かっていなかった。「この指令はいつから実行されるのですか？」との質問に、期日を伝えられていなかったシャボウスキーが「この指令は即刻実施される」と言ったため、事態は急速に進展した。マスコミが「旅行が自由化される」の部分だけを強調したため、多数の市民が国境ゲートを越えようと集まり「自由に通行できるはずだ」と警備隊に迫った。警備隊は何の指令も情報もなく発砲できなかった。事態の悪化を恐れた東ドイツ政府が期日を無視してゲート開放を決定し、東西ベルリンの国境は開放された。翌11月10日未明になると、どこからともなくハンマーや土木機械が持ち出され、ベルリン市民はそれらで壁の破壊作業をはじめた。**東西ベルリンの境界だけでなく、東ドイツと西ドイツの国境も開放された。**壁崩壊はソ連崩壊(1991)より前である。

ベルリンの壁は東西ドイツを仕切っているのではない。東ドイツ領域内深くに島のように孤立するベルリンの街の西半分が西ドイツの領域であることから、東ドイツが建造した。実際に境界線に壁（ベルリンの壁）が作られ、交通が完全に遮断されたのは、1961年8月13日であって、南北分断国家となった直後の1948年ではない。原因は西ドイツの経済成長が顕著となり、西ベルリンに行けば、西ドイツに亡命できるので越境亡命が激増したことによる。その後、二十数年に渡って「壁」を越えようとした幾多の市民が犠牲となった。

1990年3月、東ドイツで最初で最後の自由選挙が実施され、ドイツ統一を求める党派が勝利した。「壁の崩壊」から１年も経たない1990年10月、西ドイツの【8:　　】首相（任1982-98）はアメリカ合衆国・イギリス・フランス・ソ連の同意を得て、東ドイツを吸収する形でドイツ統一を実現させた。

７）ルーマニア　‥‥　当初から国内の改革に全く否定的で共産党が政権の座に固執し続けた。1989年12月の下旬のルーマニアでの民主化革命は、89年の東欧革命の中で唯一、治安維持部隊と市民の間で流血の衝突が起こり多数が犠牲となった。指導者であったニコラエ・【9:　　】が処刑されて幕を閉じた。

８）ユーゴスラヴィア　‥‥　既に独自の社会主義路線をとっていたユーゴスラヴィア連邦（６つの共和国で構成）にも変革の波は押し寄せた。1991年、クロアティア、スロヴェニア、マケドニアの３つの共和国が連邦から離脱し、1992年にはボスニア=ヘルツェゴヴィナ共和国も独立を宣言したが、ここでは内戦が激化してしまった。

９）1991年には、コメコンやワルシャワ条約機構も解消され、東欧社会主義圏は消滅した。

注：**1989年東欧革命という用語は、最も狭い意味では上記 2)～7)を指し、これが一般的な使われ方である。**1)まで含めて言う場合もあるし、上記の全部に、バルト三国のソ連離脱を含める場合と、もっと広くソ連の崩壊まで含める場合もある。このように、東欧各国はソ連の指導を脱して、【10:　　】への道を歩み始めた。

ソ連の崩壊そのもの　　これ以上簡単には書けない！（これ以上簡単に書くと、かえって分からなくなる。）

ソ連でも1989年には複数候補者制の選挙による連邦人民代議員が選出されるようになり、1890年には大統領制に移行、市場経済への移行も始まり、スターリン体制下で犠牲になった人々の名誉回復も行われた。

1）政治的自由化により民族独立運動が高まった。1990年、【11:　　】**（エストニア、ラトヴィア、リトアニア）が独立要求**を行った。ゴルバチョフは強大な権限をもつ大統領職を新設し、自らこれに就任し（結果的に最初で最後のソ連邦大統領）、バルト三国の独立要求問題に取り組んだ。バルト三国には東欧諸国とは違い**ソ連軍を投入し武力鎮圧を試みた。**ゴルバチョフはこれらの国に入って市民と対話しようと試みたが、ソ連軍の介入によって逆に独立感情は高まり、リトアニアは1991年３月、エストニアとラトビアは同年8月に独立宣言を行い、従来の15か国による連邦体制は崩壊した。（エストニアは独立宣言ではなく「独立確認」という形式をとった。）

2）ロシア共和国（後のロシア連邦）※1 の最高会議議長（実質大統領1990.5～）の【12:　　】は市場経済の全面導入を主張し、ソ連共産党を離党宣言（1990年）するという急進改革派だった。彼が、1991年６月12日、ロシア共和国大統領選挙では57.3%の得票率で当選し、同年７月にロシア共和国大統領に就任すると、ソ連における連邦制の維持を強行に求める守旧派の党官僚は危機感を強めた。

※1　旧ソ連を構成した15か国中、飛び抜けて最大級。旧ソ連領域の大半を占める連邦制の共和国。もし単一独立国なら面積世界一の国家となる。「ロシア共和国」と呼ぶ時は旧ソ連の構成国だった時代のそれを指す。ソ連崩壊後は「ロシア連邦」と改称。「ロシア連邦」を中心とするゆるやかな結合体が独立国家共同体（CIS）である。

3）ゴルバチョフは、1991年７月、【13:　　】（START Ⅰ）をブッシュ（父）と調印し、ゴルバチョフ政権は安泰かと思われた。ゴルバチョフは当初エリツィンと対決したが、和解し共和国の権限強化に賛成する方向を強めつつあった。

4）これを連邦制の危機と強く感じたソ連旧守派は、1991年８月19日、ヤナーエフ副大統領を中心として、休暇先のクリミア半島の別荘でゴルバチョフを軟禁し政権を奪取した。エリツィンは、この「８月クーデター」の際に戦車の上からロシア国民に対しゼネストを呼びかけるなど徹底抗戦した。大衆政治家らしい派手なパフォーマンスで民衆の期待を集めた。民衆の抵抗でクーデターは３日で失敗に終った。この事件はエリツィン派の勢いを強める結果となった。

5）「８月クーデター」は失敗したがゴルバチョフの求心力は急速に低下した。クリミアでの軟禁を解かれたゴルバチョフ（彼はソ連共産党書記長でもある）は、その直後に【14:　　】**の解散を宣言**し、書記長も辞任した。1991年９月、バルト三国の独立を承認し、同月、コメコン（COMECON）も解散。ワルシャワ条約機構は、1991年３月に軍事機構を廃止、７月１日に正式解散した。これらはゴルバチョフ時代であり、エリツィン時代ではないので間違えないように。バルト三国は後に EU、NATO に加盟した。

6）ゴルバチョフに代わってエリツィンの影響力が増大し、1991年11月6日、エリツィンはソ連共産党系のロシア共産党の活動を禁止した。1991年12月８日、エリツィンは【15:　　】共和国のクラフチュク大統領、ベラルーシ共和国のシュシケビッチ最高会議議長と秘密会談を行い、**ロシア・ウクライナ・ベラルーシのソ連からの離脱**と【16:　　】**（CIS）の樹立**を宣言することで合意した（ベロヴェーシ合意）。同年12月21日には、旧ソ連を構成した15か国のうち11か国が参加して、【17:　　】（ロシア共和国から改称）を中心とする【16】**が成立**した（バルト三国は独立しちゃったので残りは12。未加入のグルジアも1993年には加入。これで旧ソ連のバルト三国を除く全ての国である）。ソ連崩壊は避けられなくなり、**1991年12月25日にゴルバチョフはソ連大統領を辞任。ソビエト連邦はその歴史に幕を下ろした。**

ソ連崩壊後のロシア　　非常にメンドウであるが、これ以上簡単には書けない！

1）**独立国家共同体**（CIS）

旧ソ連領の大半はロシア連邦を中心とする独立国家共同体（CIS）に再編された。1993年にはグルジアの加入で旧ソ連15か国中12か国の加入を見たが、独自の憲法も議会も持たない緩やかな共同体である。後年、トルクメニスタン、ウクライナ、モルドバが事実上の準加盟国（或いは加盟国としての任務の拒否）になり、2008年８月の南オセチア紛争により2009年８月にジョージア（グルジア）が脱退するなど、構成国には変遷があり、現在の正式加盟国は９カ国である。本部はベラルーシの首都ミンスクに置かれている。

受験的には独立国家共同体はソ連崩壊の場面でしか出てこない。下線部を覚えれば充分で、元首が誰かなど細かいことは気にしなくてよろしい。

2）ソ連の後継

旧ソ連を構成した15か国中、圧倒的に最大のロシア共和国は、【17】（これを単にロシアと呼んでいる）と改称して**ソ連の事実上の後継国家**となった。ロシア共和国大統領（任期５年）だったエリツィンはソ連崩壊後も引き続いてロシア連邦大統領としてロシアを主導した。ロシア連邦は国連でのソ連の代表権を継承し、現在では旧ソ連の【18:　　】を全て管理、宇宙開発を引き継いだ。アメリカとの関係改善が進み、1993年には第二次戦略兵器削減条約（START II）に調印した。

3）エリツィンの経済政策

エリツィン大統領は、国際通貨基金（IMF）等の国際機関の助言に従い急激な【19:　　】導入を図ったが、その一環として行われた価格自由化は1992年に前年比2510%ものハイパーインフレーションを引き起こし、多くの民衆を困窮させた。1992年の国内総生産（GDP）は前年比マイナス14.5%となった。この間、首相を何度も更迭した。民営化を上手く利用して国有資産だった企業を手に入れ、莫大な富を築き上げる者も出現した。彼らはロシアの新興財閥となる。

№211へつづく

【MEMO】